

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

視能訓練学科

授業科目 (科目ID)	生物学 22n101	担当教員 (実務経験)	松田 理恵 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	生命科学について基本的な知識と理解力を養い、医学の学習を円滑に進められるようになる。				
到達目標	細胞、発生、遺伝、情報伝達、免疫、恒常性を中心に、生命科学の基本を説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	サイエンスビュー生物総合資料 四訂版(実教出版)、はじめの一歩のイラスト生理学(羊土社)、基礎から学ぶ生物学・細胞生物学(羊土社)				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	①確認テスト60% ②提出物(問題演習、課題)の提出状況40% 提出物は学習内容をよく復習した上で教科書などを活用し完成度を高めること。		
	レポート	%			
	小テスト	60%			
	提出物	40%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	毎回教科書・パソコンを持参すること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	生命とは	生命の定義		
	2	細胞	細胞の構造、組織と器官		
	3	生体を構成する物質	水、タンパク質、炭水化物、脂質の構造と機能		
	4	代謝	生体エネルギー生産、ATP		
	5	細胞分裂	体細胞分裂、減数分裂、生殖		
	6	発生	発生		
	7	遺伝の法則	メンデル遺伝		
	8	遺伝の法則	遺伝の法則の演習		
	9	まとめ1	総合演習		
	10	遺伝子発現とタンパク質合成	遺伝子が発現するしくみ		
	11	遺伝子発現とタンパク質合成	遺伝子が発現するしくみ、タンパク質の基本的性質		
	12	ヒトの脳と神経系	神経系、伝導と伝達		
	13	恒常性	体液の恒常性、免疫		
	14	恒常性	内分泌系、自律神経系		
15	まとめ2	総合演習			

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校 視能訓練学科

授業科目 (科目ID)	国語表現法 22n102	担当教員 (実務経験)	横山 昌明 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義・演習	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	学生・社会人として必要な「国語力」を身に付け、適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝える力を高めるとともに、思考力や判断力、想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を身につける。				
到達目標	①国語表現の学習を始めるにあたり、表現能力の自己診断を行い、学習の意義や方法を確認する。②漢字や語彙の学習を通し、これらを習得していく習慣を形成するとともに、日本語の特徴に関心を持ち、解釈や表現に生かす意識を持つ。③要約の方法を理解し、それを応用しながら、レポートや小論文の実践的な書き方を身につける。④レポートや小論文作成の手順と方法を学ぶ。				
テキスト・参考図書等	キャリアアップ国語表現法 23訂版(嵯峨野書院)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50%	①定期試験50% ②レポート・論文30% ③提出物(レポート・論文以外)10% ④その他(取組姿勢など)10%		
	レポート	30%			
	小テスト	%			
	提出物	10%			
	その他	10%			
履修上の留意事項	①授業は、講義を中心に演習・ペアワーク、グループワーク、ディベート、学び合いなども取り入れた形で行う。また、テキストに加えて補足プリントを適宜用いて進める。場合によってはプリントの提出を求める。②授業や課題には積極的に取り組み、主体的・能動的に学ぶこと。授業に対する関心、意欲態度は重要視する。私語は厳に慎むこと。③レポート・論文などの課題は必ず仕上げて提出すること。なお、評価に値しない内容のものは再提出させる。剽窃(コピーを含む)は絶対にしないこと。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス 「コミュニケーションと国語表現との関係」(総論)	◇授業の進め方・評価についての説明 ◇学生・社会人に必要な「国語表現」とは ◇論理的に読み・考え・表現する必要性		
	2	文章表現の基礎①	◇漢字の習得方法◇熟語の構造◇仮名遣いや送り仮名 ◇四字熟語◇音訓と熟語		
	3	文章表現の基礎②	◇文の仕組と文章構成◇文章の要約と理解◇原稿用紙の使い方		
	4	文章表現の基礎③	◇表記の仕方◇語句の用法と文章の区切り方		
	5	文章表現の基礎④	◇推敲(文章のリフォーム)◇わかりやすい説明の方法◇文章上達のコツ		
	6	文章作成の基礎①	◇意見の論理的な述べ方◇セルフレポートの実践(立論、反論、主張)		
	7	文章作成の基礎②	◇文章の「型」の理解◇文章の構成方法◇「構成ノート」作成		
	8	文章作成の方法と実践①	◇要約の方法◇課題分から問いを見つける◇課題文型レポートの実際 ◇データ型レポートの実際		
	9	文章作成の方法と実践②	◇データ資料の収集方法◇分析方法、テーマの設定方法◇文章作成の実際		
	10	レポート・論文の作法	◇題名の付け方◇定義の仕方◇引用の仕方◇効果的な段落の方法 ◇事実と意見の区別◇わかりやすい文章を書くために		
	11	レポート作成の方法と実践①	◇思考の論理的な組み立て方◇問いの立て方と根拠の示し方 ◇批判的な検討の仕方◇効果的な引用の仕方		
	12	レポート作成の方法と実践②	◇レポートの「型」の決め方◇レポートのイメージのつかみ方		
	13	レポート作成の方法と実践③	◇レポート作成の手順(論点を決める、情報整理・収集、組み立て、執筆、点検)		
	14	国語表現の応用と活用	◇就職面接の形式、面接の流れ、話し方、面接の作戦 ◇自己推薦書・志望理由書の書き方、自己アピールのポイント		
15	まとめ(社会との接点としての国語表現)	◇プレゼンテーションの技術と実際、社会に働きかける表現			

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

視能訓練学科

授業科目 (科目ID)	数学・統計学 22n103	担当教員 (実務経験)	花田 貴 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	数学の基礎力を養う。統計の基礎を学習し、統計資料の適切な処理が出来るようにする。				
到達目標	①三角比、指数法則、指数の逆演算である対数を理解し計算できる。②ベクトルの定義を理解し、演算ができる。③衛生統計としての基本的な統計事項を資料の収集からその処理ができる。④資料収集から資料の特質を推定する際の収集の仕方やその推定の信頼度や危険性を求めることができる。				
テキスト・参考図書等	冊子、プリント教材を配付。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50%	①数学期末試験50% ②統計学提出物50%		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	50%			
	その他	%			
履修上の留意事項	予習・復習すること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	三角比1	ガイダンス、三角比、相似と比例		
	2	三角比2	三角比の定義と演習、三角比の求め方と演習		
	3	指数関数	指数法則とその計算、指数の拡張、累乗根とその性質		
	4	対数関数1	対数定義、性質とその計算		
	5	対数関数2	対数の底の変換公式・常用対数		
	6	三角比、対数	復習、演習		
	7	ベクトル	ベクトルの定義、和、差		
	8	数学まとめ	演習・復習		
	9	ガイダンス	統計学を学習するにあたって		
	10	資料の整理1	集団の代表値、平均、最頻値、中央値		
	11	資料の整理2	簡便法による平均値の求め方		
	12	資料の整理3	データのグラフ化と散らばり、分散、標準偏差		
	13	推定と検定1	区間推定、母集団の標準偏差(既知の場合、未知の場合)		
	14	推定と検定2	比率の推定区間、検定について		
15	推定と検定3	検定のまとめ、レポート作成			

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

視能訓練学科

授業科目 (科目ID)	情報処理 22n104	担当教員 (実務経験)	赤尾 みどり 情報処理系企業に勤務し、システム開発や顧客へのインストラクションに従事し、当該科目の教育を行う		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	この授業は、本校における学習に必要な情報リテラシーを身につけることを目的とし、コンピュータ操作法の基礎を学ぶ。また、ワープロ、表計算ソフトウェア、パワーポイントなどを活用したビジネス情報の処理ができる。パソコンを有効活用するための知識と操作法を習得する。				
到達目標	①ワード・ドキュメントを使ってレポートが作成できる。②エクセル・スプレッドシートを使って表や図が作成できる。③パワーポイント・スライドを使ってスライドが作成できる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じてプリントを配付				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50%	①各試験の平均点50% ②平常点(出席状況・提出物状況)50%		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
その他	50%				
履修上の留意事項	①授業はPC室で行うので時間までに着席していること。②説明と実習(実習がメイン)、高校の必修教科「情報」で学ぶWindowsの基本操作(日本語入力、フォルダの新規作成、ファイルの移動・コピー、開く・閉じる等)は、既習であることを前提とする。③積み重ねの演習が多いので休まずに出席すること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	情報処理の基礎	Windowsとインターネットの基礎(情報セキュア・著作権等)、メールの送受信とフォルダの作成、Googleアプリの使い方		
	2	文書化の基本Ⅰ	効率的な文字入力と変換、文字装飾		
	3	文書化の基本Ⅱ	作表1、画像・図形の利用1		
	4	文書化の基本Ⅲ	作表2、画像・図形の利用2		
	5	文書化の基本Ⅳ	練習問題		
	6	表計算ソフトの活用Ⅰ	データ入力とワークシートの編集		
	7	表計算ソフトの活用Ⅱ	四則演算と関数の基礎、作表と編集		
	8	表計算ソフトの活用Ⅲ	グラフ表現の要点とグラフ作成		
	9	表計算ソフトの活用Ⅳ	練習問題		
	10	文書作成ソフトと表計算ソフトの連携	総復習、総合練習問題		
	11	プレゼンテーションソフトの活用Ⅰ	スライド編集、文字装飾と図形の活用		
	12	プレゼンテーションソフトの活用Ⅱ	特殊効果(グラフ、スマートアートの活用、アニメーション効果)		
	13	プレゼンテーションソフトの活用Ⅲ	表・ワードアートの挿入、テーマの設定		
	14	プレゼンテーションソフトの活用Ⅳ	資料作成とプレゼンテーションの基礎知識		
15	プレゼンテーションソフトの活用Ⅴ	総合演習、プレゼンテーション			

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

視能訓練学科

授業科目 (科目ID)	研究法 I 22n105	担当教員 (実務経験)	松田 理恵 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 別紙1参照		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	人体の構造と機能についてより理解を深める。視能学を学びその知識の広さを知る。				
到達目標	実習を通して人体の構造について理解を深め、三次に行なう症例発表会に向けて学術的な発表ができる。				
テキスト・参考図書等	人体の構造と機能 第5版(医歯薬出版)、シンプル生理学 改訂第7版(南江堂)、病気が見える vol.12 眼科(メディックメディア)、視能学 第3版(文光堂)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	①提出物30% ②課題発表50% ③オリジナル問題20%		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	30%			
	その他	70%			
履修上の留意事項	①提出物は期限厳守。②課題発表は欠席しない。③USBメモリを用意すること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	症例発表会1(松田)	症例検討1 ポスター発表 ディスカッション参加		
	2	症例発表会2(松田)	症例検討2 ポスター発表 ディスカッション参加		
	3	症例発表会3(松田)	症例検討3 オーラルセッション ディスカッション参加		
	4	症例発表会4(松田)	症例検討4 オーラルセッション ディスカッション参加		
	5	課題発表の技術1(松田)	課題発表の目的、作成から発表までの流れ、作成上の注意事項説明、眼科医療に関する題材の中から課題選定		
	6	課題発表の技術2(松田)	アウトライン作成、発表資料作成1		
	7	課題発表の技術3(松田)	発表資料作成2		
	8	課題発表の技術4(松田)	発表資料作成3		
	9	課題発表の技術5(松田)	中間発表		
	10	課題発表の技術6(松田)	パワーポイントや原稿の修正点を確認		
	11	課題発表の技術7(松田)	課題発表会、課題発表および学生相互評価		
	12	課題発表の技術8(松田)	課題発表会、課題発表および学生相互評価		
	13	問題検討1(四宮、川岸)	問題の検討・オリジナル問題作成		
	14	問題検討2(四宮、川岸)	問題の検討・オリジナル問題作成		
15	問題検討3(四宮、川岸)	オリジナル問題回答・解説			

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

視能訓練学科

授業科目 (科目ID)	教養 I 22n106	担当教員 (実務経験)	松田 理恵 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 別紙1参照		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義・演習	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	医療機関の役割を理解し、接遇・マナーも含めて医療従事者としての人間性を高める。手話・点字の基礎を学ぶ。				
到達目標	①医療人に求められる教養と接遇について説明できる。②手話で簡単な挨拶ができる。				
テキスト・ 参考図書等	マナー検定テキスト、点字セット、プリント教材				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	①理想の視能訓練士像20% ②医療人のマナー30% ③手話・点字20% ④視能訓練士を知る30%		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	100%			
履修上の 留意事項	授業には積極的に参加すること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	視能訓練士総論1(四宮)	視能訓練士の概要、3年間の流れ、学校生活、学習内容		
	2	視能訓練士総論2(四宮)	理想の視能訓練士像とは		
	3	医療人のマナー1 マナーの基本(高野)	なぜマナーが必要なのか、礼法の美しい流れ、あいさつ		
	4	医療人のマナー2 立ち居ふるまい(高野)	基本姿勢、立ち居ふるまい、おじぎ、物の授受		
	5	医療人のマナー3 相手を尊ぶ席次(高野)	自分の立場、席次とは、場面別の席次		
	6	医療人のマナー4 第一印象の大切さ(高野)	信頼関係、身だしなみ、表情、態度、姿勢、目線、敬語		
	7	コミュニケーション論1(山本)	手話に関する基礎的理解について、指文字の表現		
	8	コミュニケーション論2(山本)	手話とジェスチャー表現について、自己紹介、数字、指文字		
	9	視能訓練士を知る(前田)	視能訓練士の業務、責任とやりがい		
	10	視能訓練士を知る(松田)	啓蒙活動とは		
	11	視能訓練士を知る(松田)	啓蒙活動用の資料作成		
	12	視能訓練士を知る(松田)	啓蒙活動用の資料作成		
	13	視能訓練士を知る(松田)	啓蒙活動用の資料発表		
	14	点字1(加藤)	点字を知る、読み書きの基本		
15	点字2(加藤)	点字を知る、読み書きの基本			

授業科目 (科目ID)	教養 I 22n106	担当教員 (実務経験)	高野 文子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 人材育成会社を営しマナー教育に従事し、当該科目を担当する
対象年次・学期	1年・通年	担当教員	山本 浩司
授業形態	講義・演習	(実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>
		担当教員 (実務経験)	加藤 千智 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 盲導犬協会において視覚障害者の指導・支援に従事し、当該科目の教育を行う
		担当教員 (実務経験)	前田 謙太 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 視能訓練士として眼科検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
		担当教員 (実務経験)	四宮 敦志 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 視能訓練士として眼科検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
		担当教員 (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員 (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員 (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員 (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員 (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

視能訓練学科

授業科目 (科目ID)	心理学 22n107	担当教員 (実務経験)	高橋 陸斗 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	専門課程につながるベーシックな心理学を幅広く学ぶ。心理学を学ぶことで視能訓練士としての資質の向上を図る。特に、心理的配慮が求められる事例の学習によって、より高度なコミュニケーションスキルや知識を身につける。				
到達目標	心理学的な知識の習得、そして視能訓練士として関わる現場でそれらを具体的に活用できる。				
テキスト・参考図書等	心理学第5版(東京大学出版会)、心理学(有斐閣)、他				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	90%	①定期試験90% ②提出物10%		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	10%			
その他	%				
履修上の留意事項	①板書、質疑応答、ディスカッション。②心理実験・検査を活用した体験学習。 心理学は人の心を対象にした学問である。心は具体的な形を持たないからこそ理解することが難しい一方で、人間にとって身近で親しみやすいものでもある。その心について様々な角度から見ていくことで、今までとは違った視点で自分自身や周りの人、社会全体が捉えられるようになる。心理学的な知識やスキルは、将来医療の現場で患者さんと関わっていく皆さんにとって様々な形で役立つと思われる。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	・講義全体の流れ・自己紹介 ・心理学とはー心理学の歴史、意外と身近にある心理学		
	2	学習	学習の理論、環境に合わせて変化する行動		
	3	学習/記憶	・技術を習得するプロセス・記憶の種類		
	4	記憶	忘れてしまう要因、どうしたら記憶力が良くなるのか		
	5	性格と個人差の心理学1	・性格とは何か・性格はどのように作られるか・性格のアセスメント		
	6	性格と個人差の心理学2	YG性格検査 内田クレベリン精神検査1		
	7	性格と個人差の心理学3	YG性格検査 内田クレベリン精神検査2		
	8	発達心理学1	・言語・認知の発達 ・乳児期・幼児期の発達		
	9	発達心理学2	・幼児期の発達 心の理論ー他者の考えを理解する能力 ・児童期以降の発達		
	10	社会心理学1	人から受ける影響、どんな人に魅力を感じるか		
	11	社会心理学2	・集団の中にいることで受ける影響 ・文化や環境からの影響		
	12	事例・実践を通して見る臨床心理学1	発達障害について考えるー障害をどのように捉えるか		
	13	事例・実践を通して見る臨床心理学2	当事者の困りや悩みをどう理解するか		
	14	事例・実践を通して見る臨床心理学3	心理的な問題にどのように介入するか(臨床心理学)		
15	まとめとしてー医療と心理学	現場で活かす心理学			

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

視能訓練学科

授業科目 (科目ID)	保育学 22n108	担当教員 (実務経験)	鴨田 美幸 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 保育士として保育業務に従事し、当該科目の教育を行う別紙1参照		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義・演習	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	視能訓練士として検査・訓練の対象である小児の特性を保育学の面から理解する。仕事に必要な保育について学び、体験する。				
到達目標	保育総論、乳幼児の発達と特性について述べるができる。子どもとコミュニケーションがとれる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて、プリント等配付				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	各担当ごとに ①レポート提出(作成物含) 45% ②平常点 5% の50%ずつの配分		
	レポート提出	90%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	平常点	10%			
履修上の留意事項	提出物は期限厳守の上、担当学生が一括してクラス担任に提出すること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	保育の実際Ⅰ(鴨田・加藤)	ガイダンス、アイスブレイキング、親や子どもと接する時に心がけること		
	2	保育総論Ⅰ(鴨田)	保育を学ぶ意義		
	3	保育総論Ⅱ-①(鴨田)	乳幼児の発達① からだ		
	4	保育総論Ⅱ-②(鴨田)	乳幼児の発達② ころこ		
	5	保育の実際Ⅱ-①(加藤)	子どもの育ちを考える わらべうたから見える子どもの育ち①		
	6	保育の実際Ⅱ-②(加藤)	子どもの育ちを考える わらべうたから見える子どもの育ち②		
	7	保育の実際Ⅱ-③(加藤)	子どもの育ちを考える わらべうたから見える子どもの育ち③		
	8	保育の実際Ⅲ(鴨田・加藤)	コミュニケーションワークショップ		
	9	保育総論Ⅱ-③(鴨田)	乳幼児の発達③ 生活		
	10	保育の実際Ⅳ-①(加藤)	子どもの成長とおもちゃとの関係性		
	11	保育の実際Ⅳ-②(加藤)	ひきつける子どものおもちゃ 簡単な手作りおもちゃ		
	12	保育の実際Ⅳ-③(加藤)	手作りおもちゃのプレゼンテーション		
	13	保育と環境Ⅰ-①(鴨田)	子育てと地域の役割		
	14	保育と環境Ⅰ-②(鴨田、加藤)	子育て・子育てを支援する環境 NPOの活動紹介スライド		
15	保育の実際Ⅴ(鴨田、加藤)	過去のおもちゃフォーラムスライド おもちゃフォーラムミニ版を考えてみよう			

